

これあり、山にてハ薪材木を出し、柑類を

売買し、浦かたにてハ塩を焼、魚をとり

商買仕るに付、いつもかせぎはこれあるへきと

存し、以来の分別もなく、たくハへ候物をも

当座当座にむさつつかひ候ゆゑ、きよんの年

などは里かたの百姓より一入迷惑仕り、餓死

するものも多くこれあると相聞候間、きよん

の年乃苦勞、つねづねわするへからさる事

一 独身の百姓隙入候か、又煩田畑仕付かね候時ハ、五人

組・惣百姓助あひ、作あらし候ハぬやうに仕るへく候、

次に独身の百姓、田をかき苗をとり、明日は

田をうゑへしと存候所に、地頭代官の所又は

公儀の御役にさゝれ、五日も三日も過候へハ、取置候

苗もあしくなり、其外の苗も節立植時過候